



平成30年3月期

ソフト99コーポレーション

決算説明会

平成30年5月30日

- 本プレゼンテーション、および引き続き行われる質疑応答の際の回答には、将来に関する見通し、期待、判断、計画あるいは戦略が含まれております。
- この将来予測に基づく記載や発言は、製品の需要変動、景気動向、天候およびその他のリスクや不確定要素を含みます。
- 本プレゼンテーションおよび、引き続き行われる質疑応答の際の回答に含まれる全ての将来的予測に基づく記載や発言は、プレゼンテーションの日に入手可能な情報に基づいており、私たちは、このような将来予測に基づく記載や発言を更新する義務を負いません。
- またこの記載や発言は、将来の実績を保証するものではなく、実際の結果が私たちの現在の期待とは実体的に異なる場合があります。このような違いには、多数の要素が原因となりえます。

I : 企業グループの概要

株式会社 ソフト99コーポレーション

創 立	昭和29年（1954年）10月28日
資 本 金	2,310,056,000円
代 表 者	代表取締役社長 田中 秀明
従業員数	205名（平成30年3月31日現在）
事業内容	自動車用・家庭用ケミカル用品の製造販売

当社主要製品の歴史

1969年
「ハンネリ」



1978年
「ボデーペン」



1987年
「タイネット」



1993年
「めりめりガラコ」



1999年
「フクピカwet」



2003年
「G'zoxシリーズ」



2006年
「メガネのシャンプー」



関係会社一覧



社名	所在地	資本金・出資金	議決権所有割合	関係内容
アイオン(株) 	大阪市中央区	482百万円	100.0%	資金の援助・不動産の賃貸 役員の兼任
アスモ(株) 	大阪市中央区	80百万円	100.0%	資金の援助・不動産の賃貸 役員の兼任
上海速特九九化工有限公司 	中華人民共和国 上海市	5,650 千米ドル	100.0%	役員の兼任
(株)ソフト99オートサービス 	大阪市中央区	50百万円	100.0%	資金の援助・不動産の賃貸 役員の兼任
(株)暮らし企画 	東京都江東区	50百万円	100.0%	役員の兼任・不動産の賃貸
アライズ(株) 	大阪市中央区	50百万円	100.0%	資金の援助・不動産の賃貸 役員の兼任
(株)オレンジ・ジャパン 	東京都江東区	30百万円	100.0%	資金の援助・不動産の賃貸 役員の兼任
(株)アンテリア 	大阪市中央区	10百万円	100.0%	資金の援助・不動産の賃貸
(株)ハネロン 	大阪府八尾市	33百万円	100.0%	資金の援助

事業セグメントの概要



事業セグメント	サブセグメント	運営企業
ファインケミカル	カー用品（一般用・業務用）	 (株)ソフト99コーポレーション
	家庭用品等製品	
	海外事業	 上海速特九九化工有限公司
	海外カー用品輸入・販売	 (株)アンテリア
	TPMS企画・開発・販売	 (株)オレンジ・ジャパン
	電子機器・ソフトウェア開発	 (株)ハネロン
ポーラスマテリアル	産業資材	 アイオン(株)
	生活資材	
サービス	オートサービス事業	 (株)ソフト99オートサービス
	教習事業	 アスモ(株)
	生活用品等企画販売事業	 (株)くらし企画
不動産関連	不動産賃貸事業	 (株)ソフト99コーポレーション
	温浴事業	
	介護予防支援事業	 アライズ(株)

Ⅱ：連結業績の概要

連結業績（損益：対前年比較）

■全ての事業セグメントで増収増益となり、営業利益ベースで上場来最高益を達成。

（単位：百万円）

	平成29年3月期	平成30年3月期	対前年比・増減額	対前年比・増減率
売上高	22,369	23,413	+ 1,044	+ 4.7%
売上総利益	8,309	8,886	+ 577	+ 6.9%
売上総利益率	37.1%	38.0%	+ 0.9pt	-
販売費及び一般管理費	5,890	6,138	+ 248	+ 4.2%
営業利益	2,419	2,747	+ 328	+ 13.6%
営業利益率	10.8%	11.7%	+ 0.9pt	-
経常利益	2,597	2,895	+ 298	+ 11.5%
税金等調整前当期純利益	2,485	2,785	+ 300	+ 12.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,790	1,919	+ 129	+ 7.2%

要約連結キャッシュフロー（対前年比較）

（単位：百万円）

	平成29年3月期	平成30年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,030	2,415
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲892	▲788
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲503	▲656
現金及び現金同等物に係る換算差額	▲2	1
現金及び現金同等物の増加額（△減少額）	631	972
現金及び現金同等物の期首残高	14,049	14,680
現金及び現金同等物の期末残高	14,680	15,653

減価償却費	681	697
設備投資額（※）	1,032	977

（※）有形固定資産の取得による支出

要約連結貸借対照表 (対前期末比較)

(単位：百万円)

	平成29年 3月末	平成30年 3月末	増減額		平成29年 3月末	平成30年 3月末	増減額
流動資産	21,887	23,824	+ 1,937	流動負債	2,771	3,819	+1,048
現金及び預金	15,136	16,107	+ 971	買入債務	1,054	1,249	+195
売上債権	3,582	4,025	+ 443	未払法人税等	286	573	+287
有価証券	602	300	▲302	未払金・未払費用	1,051	1,182	+131
棚卸資産	2,189	2,897	+708	その他	379	813	+434
その他	376	493	+117	固定負債	3,619	3,611	▲ 8
固定資産	28,782	29,443	+ 661	負債合計	6,390	7,431	+ 1,041
有形固定資産	21,981	22,397	+416	純資産	44,279	45,836	+ 1,557
無形固定資産	141	175	+34	株主資本	43,738	45,101	+ 1,363
投資その他の資産	6,660	6,870	+ 210	その他包括利益累計額	540	734	+ 194
資産	50,670	53,267	+ 2,597	負債及び純資産	50,670	53,267	+ 2,597

連結ハイライト指標（対前年比較）



	平成29年3月期	平成30年3月期	増減
総資産（百万円）	50,670	53,267	+ 2,597
純資産（百万円）	44,279	45,836	+ 1,557
自己資本比率	87.4%	86.0%	▲ 1.4pt
ROA（経常利益／総資産※）	5.2%	5.6%	+ 0.4pt
ROE（純利益／純資産）	4.1%	4.2%	+ 0.1pt
総資産回転率（売上高／総資産）	0.44	0.44	± 0.00
1株当たり純利益（円）	82.57	88.57	+ 6.00

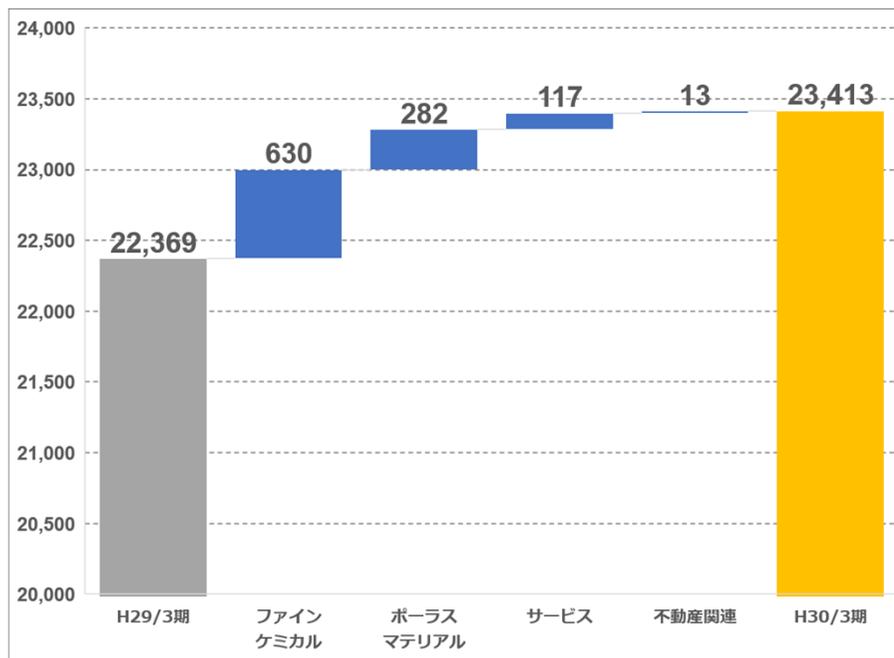
※ 期首・期末の平均値を使用。

Ⅲ：セグメント業績の概要

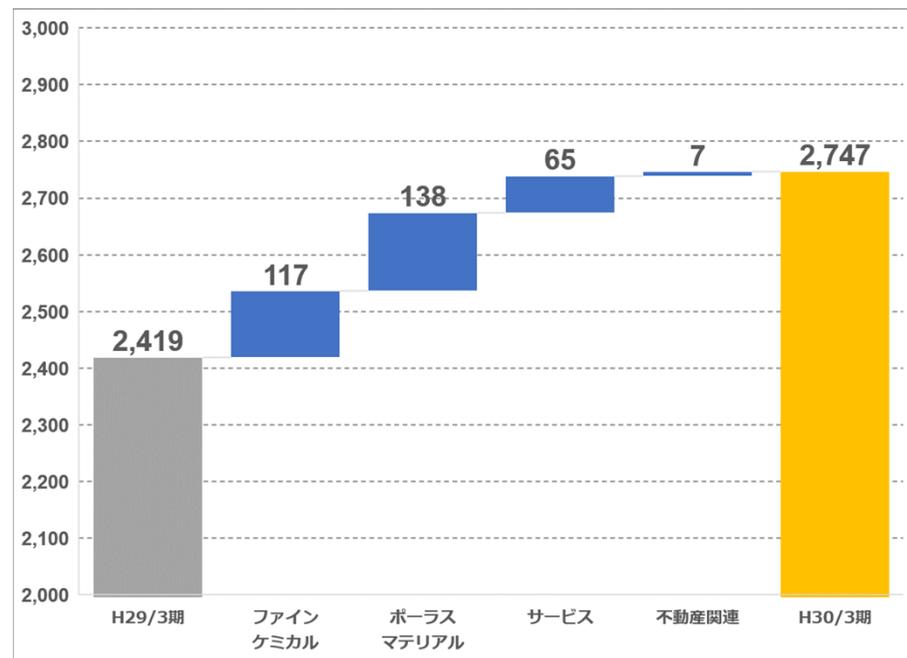
全体概況（損益：対前年比較）

- 全セグメントで増収増益となった。
- 販売面・利益面ともにファインケミカル・ポーラスマテリアルの2セグメントが成長を牽引。

セグメント別売上高増減（単位：百万円）



セグメント別利益増減（単位：百万円）



(注) 連結調整額除く

ファインケミカル（損益：対前年比較）

■セグメント全体で増収増益となる。

- ✓ 一般用自動車製品の販売はガラスケアが特に好調。
- ✓ 海外事業が大幅伸長し、セグメントの成長を牽引。

(単位：百万円)	平成29年3月期	平成30年3月期	対前年比 増減額	対前年比 増減率
売上高	10,806	11,437	+ 630	+ 5.8%
一般用：ボディケア	1,938	1,948	+ 10	+ 0.5%
一般用：ガラスケア	3,452	3,610	+ 158	+ 4.6%
一般用：リペアグッズ	2,185	2,194	+ 8	+ 0.4%
業務用	1,431	1,439	+ 7	+ 0.5%
家庭用品等	581	589	+ 7	+ 1.3%
海外事業	1,050	1,395	+ 345	+ 32.9%
TPMS：タイヤ空気圧監視装置	99	130	+ 31	+ 31.7%
その他（輸入販売・樹脂容器販売含む）	67	129	+ 61	+ 90.1%
売上総利益	5,220	5,509	+ 289	+ 5.5%
粗利益率	48.3%	48.2%	▲ 0.1pt	-
営業利益	1,305	1,423	+ 117	+ 9.0%
営業利益率	12.1%	12.4%	+ 0.3pt	-

ポーラスマテリアル（損益：対前年比較）

■セグメント全体で増収増益となる。

- ✓ 産業資材の国内販売が特に伸長。海外も堅調。
- ✓ 高粗利製品の販売増と工場の稼働率向上が原価改善につながり増益。

(単位：百万円)		平成29年3月期	平成30年3月期	対前年比 増減額	対前年比 増減率
売上高		5,178	5,461	+282	+5.5%
産業資材		3,668	3,928	+260	+7.1%
国内		1,876	2,098	+222	+11.8%
海外		1,792	1,830	+38	+2.1%
生活資材		1,510	1,532	+22	+10.7%
国内		708	730	+21	+3.2%
海外		801	802	+1	+0.1%
売上総利益		1,681	1,837	+155	+9.3%
粗利益率		32.5%	33.6%	+1.1pt	-
営業利益		698	837	+138	+19.9%
営業利益率		13.5%	15.3%	+1.8pt	-

サービス（損益：対前年比較）

■セグメント全体で増収増益となる。

- ✓ 自動車整備・钣金事業はコーティング・プロテクションフィルム施工サービス好調。各工場の構成を見直し処理能力改善。
- ✓ 自動車教習事業では準中型免許の入所者増加、法人・地域交通局への講習強化。
- ✓ 生活用品企画販売事業においては主力の生協向け販売で規格採用数が増加。

（単位：百万円）	平成29年3月期	平成30年3月期	対前年比 増減額	対前年比 増減率
売上高	4,942	5,059	+117	+2.4%
自動車整備・钣金事業	2,388	2,453	+64	+2.7%
自動車教習所	870	885	+15	+1.8%
生活用品企画販売	1,683	1,720	+37	+2.2%
売上総利益	1,106	1,241	+134	+12.2%
粗利益率	22.4%	24.5%	+2.1pt	-
営業利益	144	209	+65	+45.5%
営業利益率	2.9%	4.1%	+1.2pt	-

不動産関連（損益：対前年比較）

■セグメント全体で増収増益となる。

- ✓ 不動産賃貸事業は、保有物件の稼働率上昇と一部不動産の賃貸化により増収。
- ✓ 温浴事業は一部店舗での設備故障による来店客数減少が影響し減収。
- ✓ 介護予防支援事業では登録者の利用件数増加により増収。

(単位：百万円)	平成29年3月期	平成30年3月期	対前年比 増減額	対前年比 増減率
売上高	1,441	1,455	+13	+1.0%
不動産賃貸	364	374	+10	+2.7%
温浴事業	1,030	1,028	▲2	▲0.0%
介護予防支援事業	47	52	+5	+11.3%
売上総利益	301	306	+4	+1.6%
粗利益率	20.9%	21.0%	+0.1pt	-
営業利益	261	269	+7	+2.7%
営業利益率	18.2%	18.5%	+0.3pt	-

セグメント情報（セグメント別売上高・営業利益比較）



（単位：百万円）

売上高	平成29年3月期	全体構成比率	平成30年3月期	全体構成比率	対前年構成比率 増減
ファインケミカル	10,806	48.3%	11,437	48.9%	+ 0.6pt
ポーラスマテリアル	5,178	23.1%	5,461	23.3%	+ 0.2pt
サービス・不動産関連	6,383	28.5%	6,514	27.8%	▲ 0.7pt
合計	22,369	100.0%	23,413	100.0%	—

営業利益	平成29年3月期	全体構成比率	平成30年3月期	全体構成比率	対前年構成比率 増減
ファインケミカル	1,305	53.9%	1,423	51.8%	▲ 2.1pt
ポーラスマテリアル	698	28.9%	837	30.5%	+ 1.6pt
サービス・不動産関連	406	16.8%	478	17.4%	+ 0.6pt
(※) 合計	2,419	100.0%	2,747	100.0%	—

(※) 合計には調整額を含む。

IV：第5次中期経営計画の状況

中期経営計画の概要（1/2：テーマとビジョン）



- 当中期経営計画においては、経営環境の大きな変化を事業拡大のチャンスと捉え、前中計で成果の出始めた事業の推進に加えて、さらに新しい市場へ飛び込む・新たな市場を創り出すことをテーマとし、将来の継続的成長に向けた布石の期間と位置付ける。

経営理念

■ 生活文化創造企業

- ✓ 『未来のあたりまえ』を発見する。
- ✓ 当社グループ普遍の経営理念として、第3次中期経営計画より継続。

経営課題

- ✓ 経営環境変化への対応
- ✓ 業容拡大のスピードアップ
- ✓ 余資活用による経営効率改善

中期計画 テーマ

■ SHIFT DOWN !!

- ✓ 自動車のようにギアを下げる（シフトダウンする）ことによって力強く加速しながらいち早く新しい市場へ飛び込む・新たな市場を創り出すことを目指す。
- ✓ 期間：平成29年4月～平成32年3月

中期計画 経営ビジョン

【自動車分野】

- 自動車産業グローバル化・自動車ハイテク化時代の到来に向け、新たな人とクルマの繋がりをつくる。

【産業分野】

- 表面改質と機能性精密多孔質体の技術を、幅広い産業分野での問題解決に活用する。

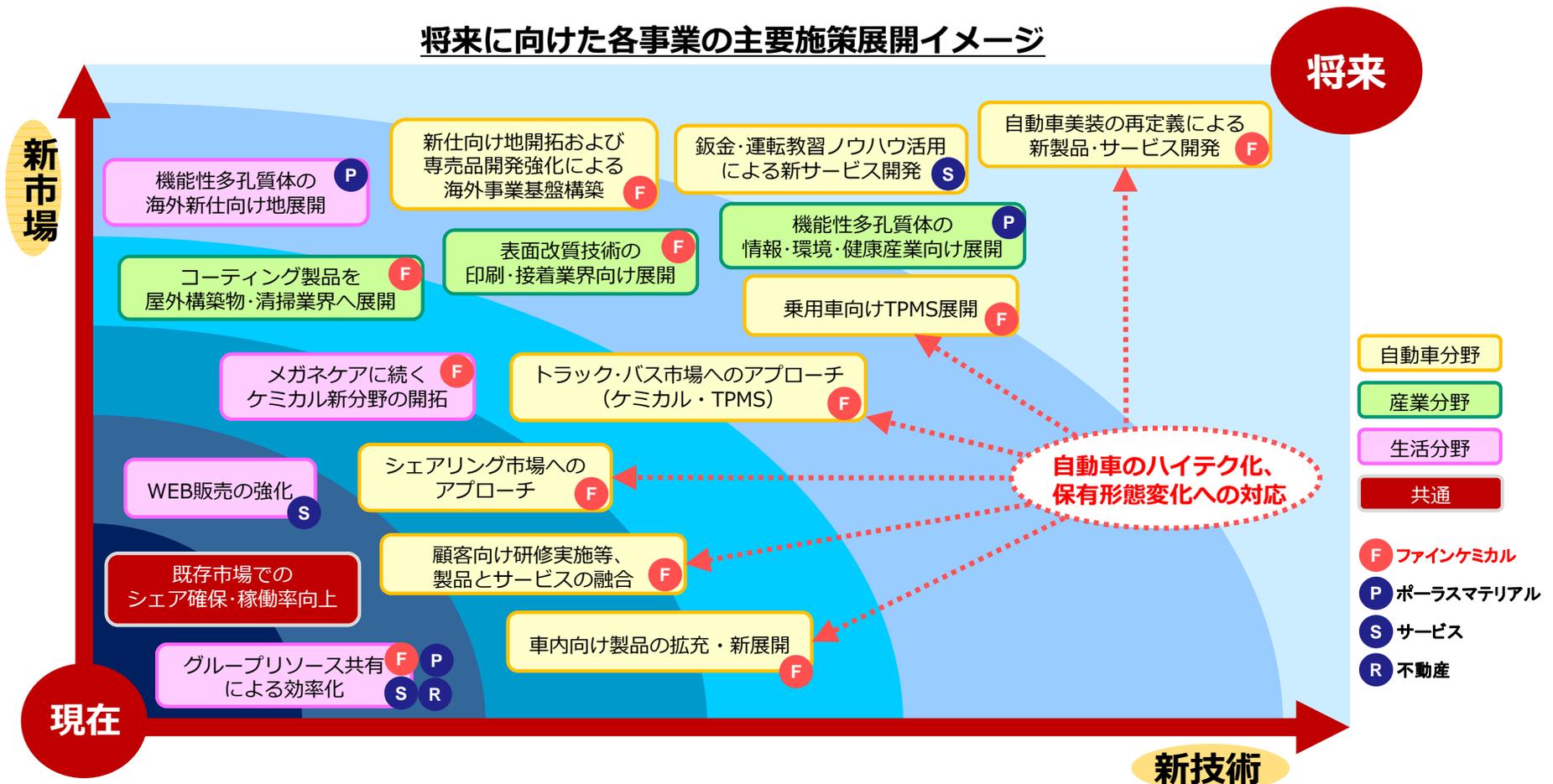
【生活分野】

- 日々の暮らしの中で起こる小さな悩み・ストレスを解消し、より快適な生活環境をつくる。

中期経営計画の概要 (2/2 : 主要施策)

- 経営基本方針に基づき、ファインケミカルセグメント・自動車分野を中心に、新市場に向けた取り組みおよび新技術への取り組みを順次展開する。

将来に向けた各事業の主要施策展開イメージ



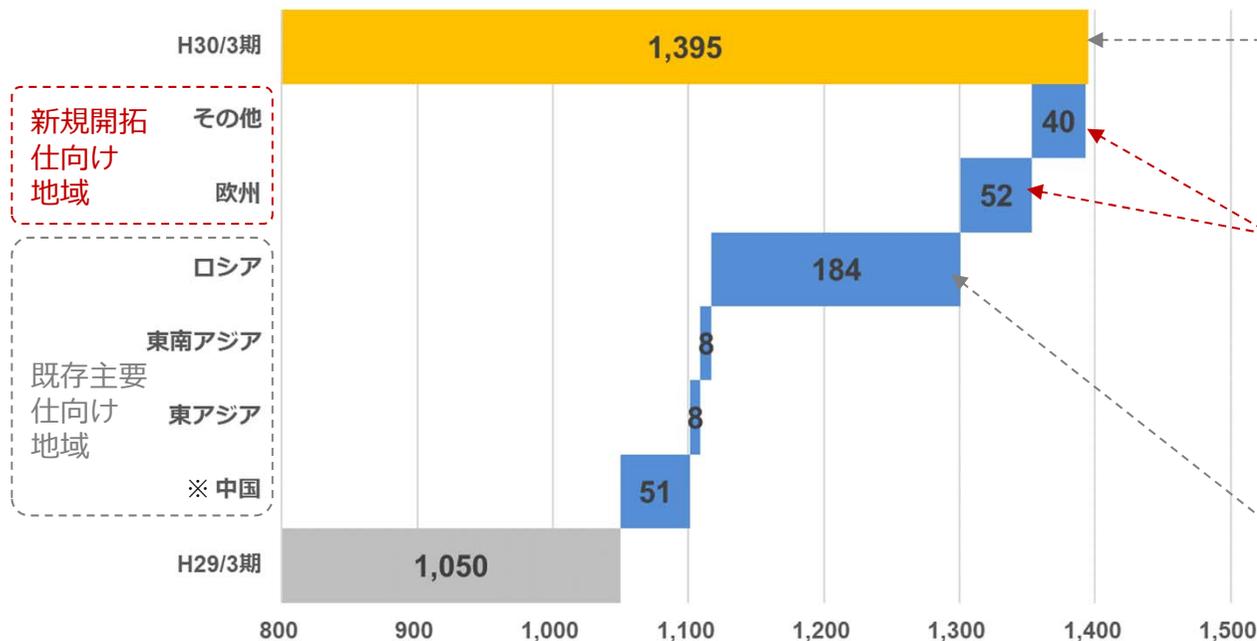
主要な成果 (1/4 : 海外事業基盤構築)

■ 【ファインケミカル】 新仕向け地開拓および専売品開発強化による海外事業基盤構築

- ✓ 欧州ではポーランド代理店向けの出荷が近年継続的に拡大。
- ✓ 既存主要仕向け地域では、ロシア向け出荷が前年を大きく上回る。
- ✓ 中国・東アジア・東南アジアのアジア地域も堅調に推移。

海外事業 仕向け地域別・売上増減 (対前年)

(単位：百万円)



ファインケミカルセグメントの海外事業全体では、前期比+32.8%の販売増となる。

近年足掛かりのついた欧州・その他新仕向け地向け販売が順調に拡大。



既存主要仕向け地域では、特にロシア向けの販売が好調。



※ 中国向け販売は、上海現法による現地生産販売分を含む。

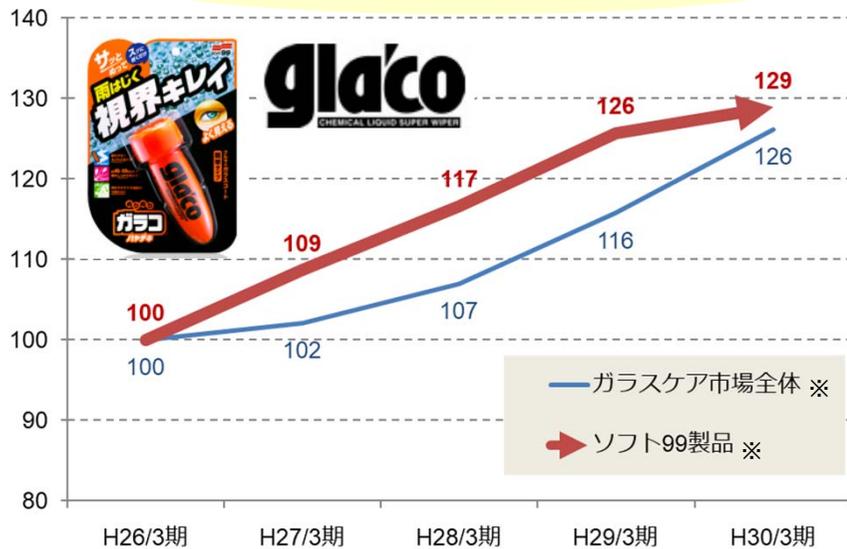
主要な成果 (2/4 : 既存市場のシェア確保①)

■ 【ファインケミカル】 ガラスケア市場のシェア確保

- ✓ 自動車用ガラスケアケミカル製品において、主力の『ガラコ』シリーズ販売が堅調。
- ✓ 自動車用撥水ワイパーの分野においても、量販店向けに加えて自動車販売店等の業務用販路への拡販が進み、輸入車用やエアロワイパー等の高付加価値製品が好調に推移。

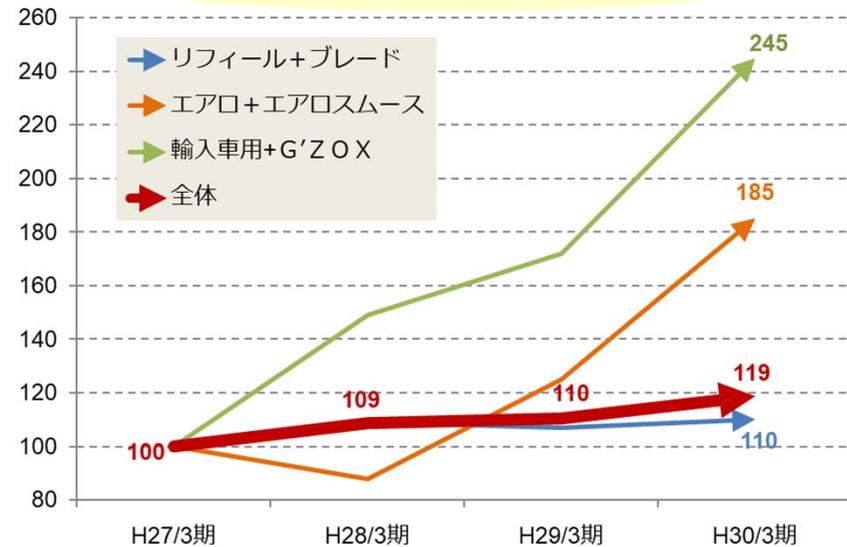
ガラスケア製品 (ワイパー除くケミカル製品) の販売推移

(平成26年3月期売上高を100とした指数)



撥水ワイパーの販売推移

(平成27年3月期売上高を100とした指数)



※ 出典: インテージSRI ガラスケア市場(ガラス撥水剤、ウインドウォッシャー液、ガラスクリーナー)
2013年4月~2018年3月 販売金額を基に当社加工

主要な成果（3/4：既存市場のシェア確保②、TB市場へのアプローチ）



■ 【ファインケミカル】 タイヤチェーン、トラック・バス用TPMS販売拡大

- ✓ 2018年1月以降の全国的な気温低下と降雪の増加タイミングに合わせた適切な店頭露出を行うことで、冬季商材であるタイヤチェーンの消化率が上昇。
- ✓ 運輸・運送会社向けにトラック・バス用TPMSの販売が拡大。

タイヤチェーン「救急隊ネット」の販売推移（8月～3月）

（平成28年3月期売上高を100とした指数）



トラック・バス用TPMS「HT430」の販売推移

（平成26年3月期販売数を100とした指数）



※ H30/3期は新製品『HT430 BLE』の販売も含む。

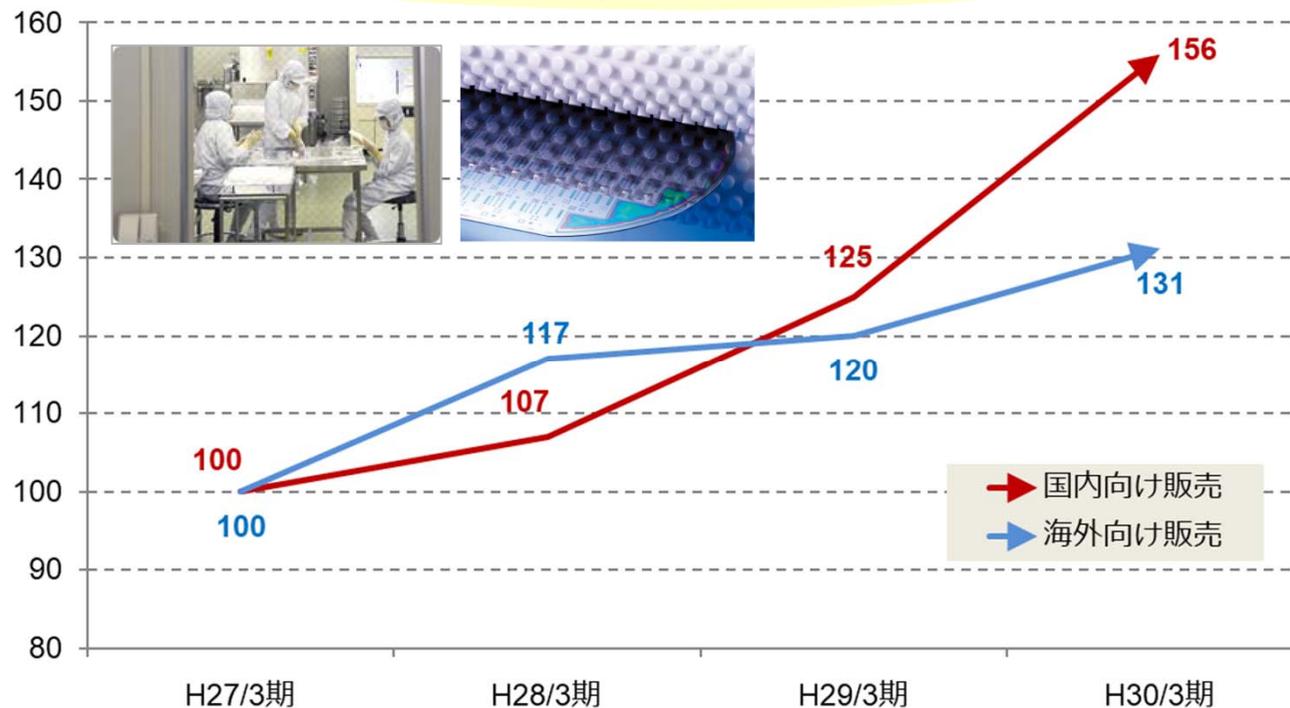
主要な成果（4/4：既存市場のシェア確保③）

■ 【ポーラス材料】産業資材製品のシェア確保

- ✓ 半導体市場の旺盛な設備投資需要に伴い、国内半導体製造装置メーカー向け製品の出荷が拡大。
- ✓ 海外半導体メーカー向け出荷も好調に推移。
- ✓ 今後は、更なる販売拡大に向けた生産能力増強のための設備投資が必要となる。

ポーラス材料セグメント・半導体向け製品の販売推移

（平成27年3月期売上高を100とした指数）



取り組み中の施策（1/5：新販路の開拓①）

■ 海外事業基盤構築

- ✓ 欧州に続く新たな巨大市場であるインドやその他新仕向け地の開拓により、既存ケミカル製品の販売ボリューム拡大を目指す。



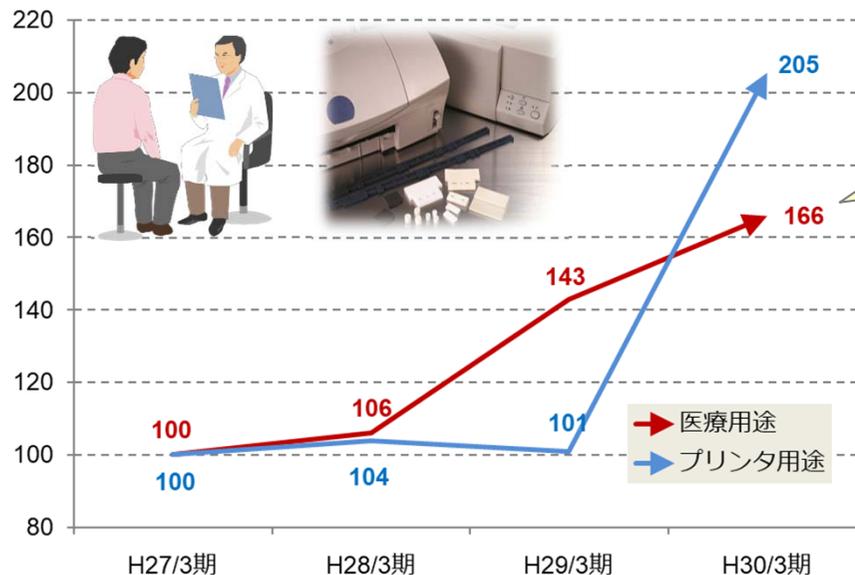
取り組み中の施策（2/5：新販路の開拓②）

■ 機能性多孔質体の情報・環境・健康産業向け展開

- ✓ メディカル・・・インフルエンザ診断キット利用の横展開、吸液材・ワイパー・フィルター用途の拡大
- ✓ その他・・・プリンタ用吸液材の横展開、生物脱臭・排水処理用途の拡大

医療用途製品・プリンタ用吸液材の販売推移

（平成27年3月期売上高を100とした指数）



当社製品の医療用途販売については、一般医療機器（※）分野での一部部材提供が中心となっているが、今後は、

- ・ 部材提供の販売横展開
- ・ 医療機器製造業販売許可の取得による最終製品提供による販売の拡大を目指す。

【ご参考】

※ 一般医療機器

高度管理医療機器及び管理医療機器以外の医療機器であって、副作用又は機能の障害が生じた場合においても、人の生命及び健康に影響を与えるおそれがないものとして、厚生労働大臣が薬事・食品衛生審議会の意見を聞いて指定するもの。

（薬事法第二条第7項）

取り組み中の施策（3/5：新製品・サービス開発の推進①）

■ 自動車美装の再定義・車内向け製品拡充

- ✓ 洗車環境の変化・洗車意識の変化に合わせた新たなボディケア製品提案継続
- ✓ クルマの利用形態変化に合わせた新たな車内向け製品の拡充継続
- ✓ 一般消費者向け製品・業務用製品の垣根を取り、全製品を幅広い業態へ展開

自動車美装の再定義による新製品・サービス開発



- 洗車場減少に合わせた『水なし洗車』製品の開発
- 洗車作業効率化のための新洗車用品シリーズ『マックスウォッシュ』展開
- 業務用コーティングの施工プロセス改善製品の提案



車内向け製品の拡充・新展開



- 除菌消臭効果を付与した車内マルチクリーナーやシート防汚コーティング等、車内清掃の新ブランド『ルームピア』展開



取り組み中の施策（4/5：新製品・サービス開発の推進②）



■トラック・バス業界アプローチ、乗用車向けTPMS展開

- ✓ トラック・バス向け新TPMSシステム『HT430 BLE（Bluetooth搭載型）』を投入し拡販を目指す。
- ✓ 乗用車向けTPMS新製品展開予定（後付け型製品に加え、純正センサー補修交換型製品の提供）

TB向け新TPMSシステム『HT430 BLE』の投入



- ✓ 各種のデジタルタコグラフやタイヤメーカーのクラウドサービスとの連動により、ドライバーに加えて運行管理者によるタイヤ空気圧・温度情報の確認も可能。
- ✓ スマートフォン・タブレット端末とのBluetooth接続によるタイヤ空気圧・温度情報の確認が可能。

乗用車向けTPMSのラインナップ強化を予定



【開発中※】
後付け型（スマホ連動タイプ）

ソフト99車両管理アプリ



【開発中※】
純正TPMS補修交換型



※ 上記の製品画像は現時点で想定する製品イメージであり、最終製品の外観や性能を保証するものではありません。

取り組み中の施策（5/5：新製品・サービス開発の推進③）

■ デジタル技術の活用による自動車アフターマーケットへの新提案

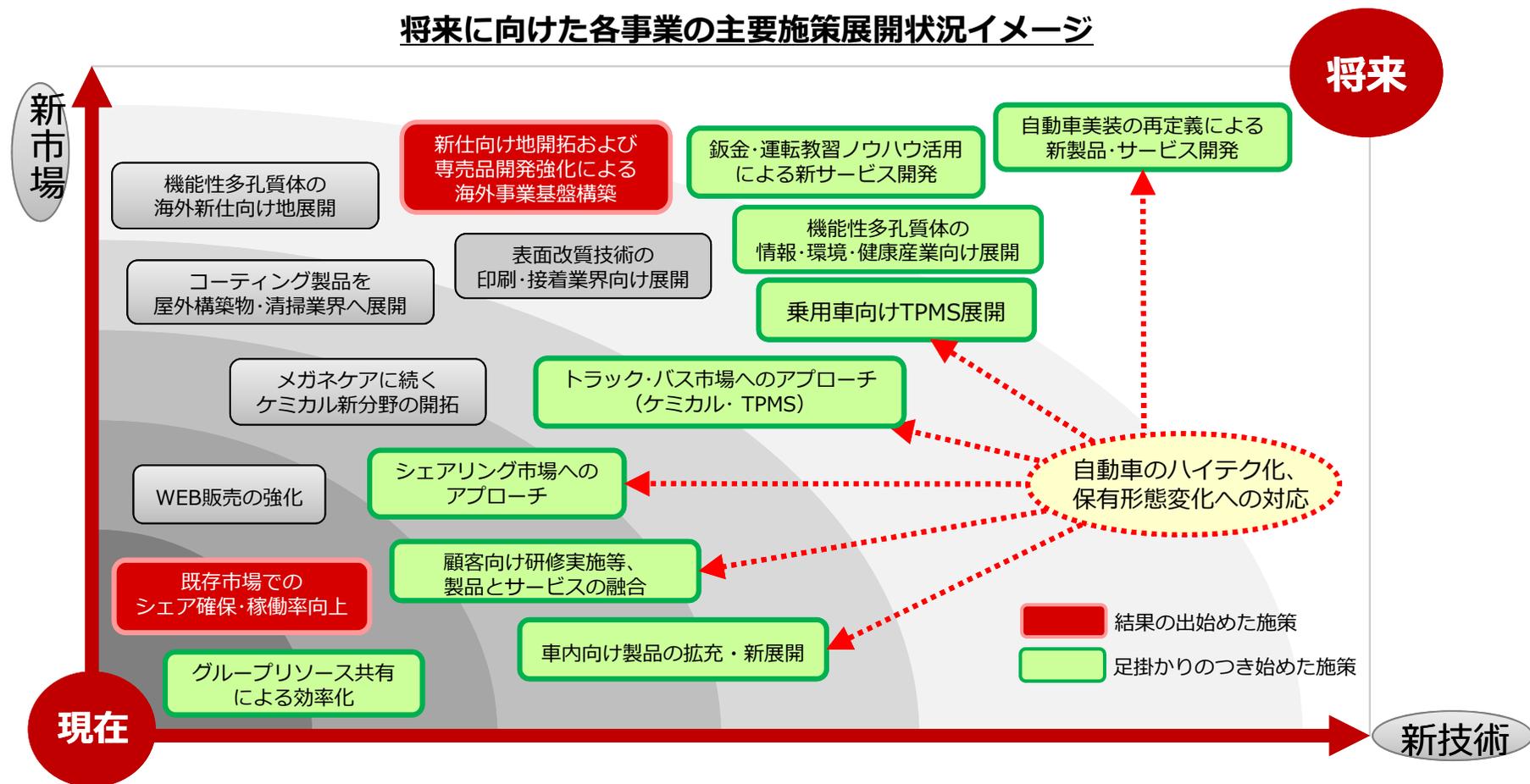
- ✓ 钣金事業において将来予想される職人不足へ対応した新製品・サービス開発の推進
- ✓ 教習事業における安全運転ノウハウのデジタル化による新製品・サービス開発の推進
- ✓ 自動車の保有・利用形態変化に対応した新たな自動車美装製品・サービス開発の推進



当中期経営計画の全体進捗状況

- 自動車のハイテク化・保有形態変化への対応を重点的に進めている。
 - ✓ 新たに取得した電子機器開発ノウハウの活用、新製品・サービス開発への研究投資を拡大する。

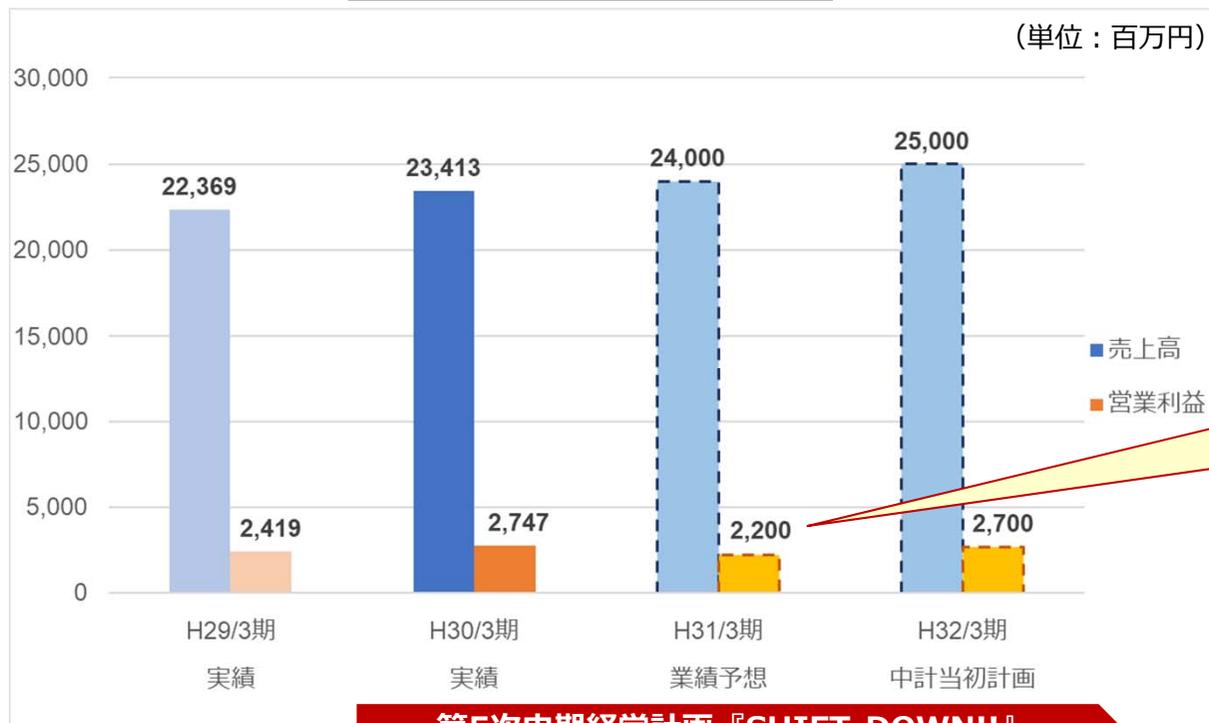
将来に向けた各事業の主要施策展開状況イメージ



損益計画の進捗状況

- 平成30年3月期は市況の好調もあり、売上高・営業利益ともに期首予想を上回る結果となった。
- 平成31年3月期は、更に『新市場への挑戦』に注力し、将来に向けた新たな製品・サービス開発の推進や生産設備増強への取り組みを行うことで増収減益を想定。
- 中期計画最終年度の損益目標は計画当初目標を据え置く。

第5次中期経営計画 損益目標



新製品・サービス開発や生産設備増強に向けた、研究費・人件費・減価償却費等の増加による減益を想定。

第5次中期経営計画 『SHIFT-DOWN!!』

株主還元の方針

- 株主還元については、安定的な配当の継続を基本方針とする。
- 本来の事業運営結果に直結し、特殊要因の影響を受け難い安定した還元を実現するため、『営業利益の20%』を株主還元の目安とする。（平成30年3月期より）
- 内部留保は将来の事業拡大と経営体質の強化のための投資に活用。

配当実績と配当予想

	平成29年 3月期（実績）	平成30年 3月期（予定）	平成31年 3月期（予想）
連結営業利益（百万円）	2,419	2,747	2,200
連結純利益（百万円）	1,790	1,919	1,600
配当総額（百万円）	458	478	478
一株当たり中間配当額（円）	10.0	11.0	11.0
一株当たり期末配当額（円）	11.0	11.0	11.0
一株当たり年配当額（円）	21.0	22.0	22.0
配当性向	25.4%	24.8%	29.8%
【参考】配当総額÷営業利益	18.9%	17.4%	21.7%

【ご参考】

平成29年11月1日～12月6日に自己株取得を実施。
（取得株式数70,000株、取得総額93,371,000円）

長時間に亘り、
ご清聴ありがとうございました